

第4期第7回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 平成30年12月17日（月曜日） 午後3時から午後5時まで

開催場所 松本市役所本庁舎別棟 3階 大会議室

出席者（敬称略）

委員 廣瀬豊（委員長）、赤沼留美子、大澤好市、木次由美子、草深邦子、倉澤聡、小林修、佐藤佳子、神保孝彦、角野園恵、降旗都子、宮下鉄、宮林孝子
（欠席 近藤博志、古幡安志、堀内正雄（副委員長）、松澤幹夫）

事務局 地域づくり部 守屋部長
地域づくり課 協働推進担当課長 田村明彦、課長補佐 廣田圭男、
協働推進担当 主査 小川敏由、
地域づくり担当 係長 宮下拓也、主事 白澤隆文

1 開会

（進行 廣瀬委員長）

2 会議事項（議長 廣瀬委員長）

(1) 地域と市民活動団体の協働について

ア 説明

- ・資料による論点整理（委員長）
- ・今後は、協働の前提となる「専門性に対する地域のニーズ」を、「地域づくり推進体制」の中で確認していく（委員長）。

イ 質疑等

なし

(2) 地域づくり推進体制について

ア 説明

（事務局 宮下）

- ・資料について説明

（廣瀬委員長）

- ・グループワークの方法について説明

イ グループワークの結果

(ア) 参加のきっかけづくり

<ロジックツリー>

- ・別紙1のとおり

<補足説明>

- ・キーワードは「楽しむ」と「つながり」の2つ

- ・お楽しみが先か、集まって話し合うこと先か、という議論もあったが、楽しくないと人は集まらない。
- ・「無関心」や「敷居が高い」という原因を解決するための実践としては、子どもの頃から地域に関わるのを当たり前を感じるような仕組みや、役員経験者のつながりを維持することも含めた多様なネットワークづくりについて、特に活発な意見が出た。
- ・情報発信に関しては、住民が役員の仕事を知らないため、多くの住民に知らせることも必要

(イ) ニーズの変化に対応できる地域組織の運営

<ロジックツリー>

- ・別紙2のとおり

<補足説明>

○情報受発信システム

- ・いかに多くの人に参加してもらうかという点で情報受発信が重要
- ・イベントなど楽しむことをコミュニケーションにつなげる仕掛けが必要
- ・情報受発信の場として、「公」（道路・公園・街角）と「共」（縁側）が大切。これらの場では住民の自然なコミュニケーションが生まれる。
- ・様々な場に出てきた話を、広く伝えて行くことが大事

○住民の意識改革

- ・「ニーズを意識していない」を「地域の可能性（良くなる可能性、悪くなる可能性）を自覚していない」と置き替えて議論した。
- ・ニーズは災害など外部要因が生じると語られるようになる。人間は近くにある確実なものを取る、不安をなくすために強い行動意識を起す傾向があることを踏まえながら、多くの人に興味を持つ外部要因を捉え、きっかけをもたらすことが大事。しかし災害を起こして興味をひくわけにはいかない。
- ・ニーズは現在地域に暮している住民のニーズ、未来の住民のニーズ、世の中の変化としてのニーズで異なるため、地域の中だけで考えることは困難。
- ・意識を変えるというよりは、住民が「可能性」を意識して地域にコミットしなくなるよう、外部の専門家（コミュニティ・デザインなど）などの力を借りることも大切

ウ 委員長によるまとめ

- ・これまでの議論の中で、課題について、原因と対策が徐々に見えてきた。
- ・今日は、それに対して何をするかという「実践」の部分について、踏み込んだ話ができる。
- ・対策や原因をしっかりと意識して行えるような「実践」を示すことができれば、今までとは違った地域づくりにつながるのではないかと。
- ・次回は市民活動推進委員会との合同開催を予定しているが、「実践」を行う上での

ヒントになるような議論ができればよいと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

ア 事務局説明

(事務局 宮下)

・資料に基づき説明

イ 質疑等

なし

3 閉会

(以上)